

1. 単元名 わたしたちの生活と森林

2. 単元の目標

- ・ 森林は、その育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解し、森林保全に携わる人の思いを考え、伝えることができる。  
(知識及び技能)
- ・ 森林資源の分布や働きなどに着目して、国土の環境を捉え、森林資源が果たす役割を考え、表現することができる。  
(思考力・判断力・表現力等)
- ・ 森林を大切にしたいという思いをもち、自分たちにできることを考えたり、実践しようとしたりすることができる。  
(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領解説5年内容(5)「我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。」にあたる。ここでは、森林の育成や保護に従事している人々の様々な工夫や努力に関する内容から構成されている。

森林は、木材を生産するだけでなく、国土の保全や水資源の涵養のために大切な働きがある。そして、森林資源を守ることは近年大きな問題となっている地球温暖化への対策となることに目を向けさせ、森林を守っていくことが未来を守るための有効な手段の一つであることを押さえておきたい。

そこで、本単元では「やまがた絆の森づくり」を教材として取り上げ、実際に活動に取り組んでいる山形日産自動車の方を招き、活動に対する思いをお聞きする。「やまがた絆の森づくり」とは、企業が継続的な森づくり活動を実施し、環境貢献と地域交流による里山地域の活性化を図る活動で、山形日産自動車も参加している。森林を守ろうと活動している方との対話を通して、山形日産自動車の方が環境問題として取り組んでいるだけでなく、地域貢献として地元の人との繋がりを大切にしていることなどに気づかせていきたい。

(2) 児童観

本学級の児童は、自動車工業の学習を行った際には、自動車がCO<sub>2</sub>を排出しており環境によくない影響を与えていること、近年では環境問題に取り組むためにCO<sub>2</sub>を排出しない自動車が開発されていることなど、自動車の生産には自動車会社の方々の工夫や努力が込められていることなどを学んだ。さらに、前単元の自然災害の学習の際に、本単元のG Tの山形日産自動車の方の話を通して、災害時における自動車会社の取り組みについて学んだ。

また、学校が住宅街に立地していることもあり、児童の身近に森林は少ない。しかし、7月に行った自然体験学習で、森林の中を歩くことでさわやかな気持ちになることに気づいた児童も少なくなかった。

### (3) 指導観

まず、「みつめる」段階では、山形県が行っている「やまがた絆の森づくり」という活動を取り上げる。この活動は、自然災害の学習の際に、山形日産自動車が行っていることを学んだ。そのことから、どうして自動車会社が森林づくりに参加しているのかを考え、予想をたてる。一見つながりのなさそうな森林づくりと自動車会社が関係していることから、児童に興味をもたせるとともに、自動車会社が森林を守る意味を考えさせたい。その際、自動車工業の学習で学んだ、自動車は自然環境に悪影響を及ぼしていることも想起させる。

次に、「しらべる」段階では、森林を守る意義を考えるために、森林のもつ働きと、日本の森林資源の分布について調べる。森林資源は林産物等の生産や水環境の保全、地球温暖化の防止など、多くの役割を果たしていることを理解させる。また、日本の森林面積が国土の3分の2以上である点にも着目し、日本が森林に恵まれており、全国に広がっていることを確認する。山形も山に囲まれており、全国の中でも森林面積の大きい都道府県である。これらを踏まえ、自動車会社がどうして森づくりに携わっているのかを児童に予想させていく。

そして、「ふかめる」段階では、山形日産自動車の方をGTとして招き、予想したことを伝える。GTとの対話を通して、なぜ自動車会社が森林づくりに参加しているのかという問いについて考えていく。

さらに、「ひろげる」段階では、対話を通して学んだことをもとに、自分たちにもできることを考える。特に森林認証制度に目を向け、身近なところにも森林を守るために貢献できることがあるのだと気づかせたい。

### (4) ESDとの関連

#### ・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

連携性・・・売り手、買い手、環境が、それぞれ繋がりを持ち、相互に作用しあっていること。

責任性・・・自分たちにできる取り組みを考え実行するのが大切であること。

公平性・・・森林は私たちの生活には欠かせない存在であるため、これからも適切な管理をして守っていくことが大切であること。

#### ・本学習で育てたいESDの資質・能力

未来像を予測して計画を立てる力

このままCO<sub>2</sub>の排出量が増え続けると、環境に大きな影響をもたらすことを見通し、自分にできることを考える。

コミュニケーションを行う力

友達やゲストティーチャーとの対話を通して、森林を守る人々の思いを考える。

・本学習で変容を促すE S Dの価値観

世代内の公正

企業の人や林業従事者が森林を守るための活動を行っていることから、消費者も森を守るために適切な消費活動を行うことが大切である。

自然環境や生態系保全を重視する

森林保全は生態系を守ることにもつながるため、適切に管理し守っていくことが大切である。

・達成が期待されるSDG s

3 健康・福祉

15 陸域生態系の保護

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>①森林の様々な働きについて理解している。</p> <p>②地図やその他資料を活用して、我が国の国土の自然などの様子について必要な情報を集め、読み取っている。</p>	<p>①森林と国土の保全を関連付けて考えることができる。</p> <p>②森林の果たす役割と保護の大切さを考え、自分たちにできることを考え、ポスターに表現している。</p>	<p>①森林について、調べたり考えたりしたことをわかりやすく伝えようとしている。</p> <p>②G Tとの対話を通して、森林を守ろうと活動している人の思いに寄り添い、自分にできることを模索しようとしている。</p> <p>③学習を基に、森林を守るためにできることについて知ってもらおうとしている。</p>

5. 単元の指導計画（全6時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
みつめる①	<p>○「やまがた絆の森づくり」について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車と森にはなにか関係があるのかな。</li> <li>・切った木は何に使っているのだろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車会社と森林との関係を考えるために、自動車工業の学習を想起させる。</li> </ul>	
しらべる②	<p>○森林の働きについて知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・森林を守ることで私たちの生活が豊かになるんだね。</li> <li>・大切な森林を守るために行っていることはあるのかな。</li> </ul> <p>○日本の森林資源の分布について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本は思っていたよりも森林が多いね。</li> <li>・森林が多いことも、森林を守ることと関係があるのかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林の大切さに目を向けさせるために、森林には多くの働きがあることを押さえる。</li> <li>・日本は森林面積の割合が高い国であることを押さえる。</li> <li>・これらのことを基に、自動車会社が森林保全に関わる理由について予想することができるようにする。</li> </ul>	<p>△ア① （知・技）</p> <p>△イ① （思判表）</p> <p>△ア② （知・技）</p>
ふかめる②	<p>○森林づくりに参加している方の思いを知る。</p> <p><b>山形日産自動車 笹原さんの話</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・森づくりを通して、地域とのつながりを大切にしているんだね。</li> <li>・自動車会社も、環境のことを考えて活動しているんだね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GTとの話から、森林保全に携わる人々の思いを考えさせるようにする。</li> </ul>	<p>△ウ①② （主体的）</p>
ひろげる①	<p>○森林保全のために自分たちにできることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物を選ぶときには、森林認証のロゴマークがある製品にしたいな。</li> <li>・自分たちにもできることがあるんだね。</li> <li>・森林認証のロゴマークについて、もっとたくさんの人に知ってもらいたいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境保全は誰もが取り組むことのできる活動であることを意識させるために、自分たちにできることを考えさせる。</li> </ul>	<p>△イ② （思判表）</p> <p>△ウ③ （主体的）</p>